

平成20年度第2次新まちづくり計画事業進行調書(その1)

計画体系コード	5-4-2	事業名	首都圏シティPR事業				
担当	総務局東京事務所 木村 顕一郎 03-3216-5090						
全体計画							
事業内容	札幌の集客交流を図るため、首都圏において札幌の都市イメージやさっぽろブランド、観光の魅力などを発信する。 広告メディアを利用した札幌のPR 公共交通機関や各種情報誌などのメディアを活用し、首都圏居住者に札幌の都市イメージやさっぽろブランドを発信する。 観光集客イベントの開催 首都圏の集客力・認知度の高いエリアで、札幌の魅力である、食や自然、文化芸術などの集客交流資源を効果的にPRするイベントを開催する。 コンベンション・教育旅行の誘致 ビジネスや学校などの団体客の集客交流を促進するため、首都圏に数多く集中している企業や学会事務局、中・高校などを対象にコンベンションや教育旅行の誘致活動を行う。			<年度別の事業内容>			
				【H19～22年度】 イメージ広告等の掲出(公共交通機関広告制作掲出、旅行情報誌等の紙面の買取)、観光集客イベントの開催、コンベンション・教育旅行の誘致			
事業内容・量・場所・規模・件数等	平成19年度事業内容(決算)			平成20年度事業内容(予算)			
	<p>広告メディアを利用した札幌のPR 山手・中央線トレインチャンネルや東急線TOQビジョン等を利用して11月～12月の6週間、雪まつりやホワイトイルミネーションなど冬の札幌をPRする映像を放映した。 首都圏でのシティPRイベントの開催 10月の2日間、お台場でさっぽろスイーツや札幌の芸術をPRするイベントを開催した。また、6月と12月には有楽町駅前PMFやさっぽろスイーツ、雪まつり等のグッズの配布や抽選会を実施した。 コンベンション・教育旅行誘致 首都圏にある学会や組織団体の事務局を訪問し、全国大会や国際会議などの札幌開催を働きかけた。また、観光部や札幌観光協会と連携し、11月に教育旅行説明会を開催したほか、教育旅行提案書を作成するなどして学校や旅行代理店に情報提供を行った。</p> <p>【決算額】23,236千円</p>			<p>各種メディアの有効利用による札幌のPR 公共交通機関等メディアを有効に活用し、首都圏における札幌の魅力やPRする。誘客の実効性を高めるために、庁内他部局との連携を強化し、より具体的な施設・イベントを対象に映像で紹介する。 首都圏における観光集客イベントの開催 東京の秋のイベントとして定着した観光集客イベントを、市全部局のPRの場と位置づけ、札幌の魅力を積極的にPRする。 有楽町駅前におけるシティPR 集客性の極めて高い有楽町駅前で、札幌の物産や観光をPRする。具体的なPR事項は市他部局等から募り、タイムリーな情報発信・PRに努める。 コンベンション・教育旅行の誘致 年間を通じて、首都圏の学会事務局などに札幌へのコンベンション誘致の訪問活動を、また中・高校及び旅行代理店に札幌・北海道への教育旅行誘致活動を行う。</p> <p>【予算額】21,931千円</p>			
達成目標の状況							
項目		18年度末 (現状)	19年度末 (実績)	20年度末 (予定)	21年度末 (予定)	22年度末 (予定)	22年度末 (目標)
観光集客イベントの集客人数		7.1万人	7.0万人	7.3万人	7.4万人	7.5万人	7.5万人
コンベンション開催団体への訪問回数		501件	547件	620件	620件	620件	620件
市民・企業等との協働の状況(市民・企業等の参加、支援、協力の状況)							
<p>市民との連携、市民参加 首都圏において開催するシティPRイベント開催告知及びメディア広告画像をホームページで公開し、市民と情報を共有するよう努めている。</p> <p>企業等との連携・協働 [資金協力] [人材協力] [情報協力] [その他の協力] 市民・企業等が参加しやすい環境づくり</p>							

平成20年度第2次新まちづくり計画事業進行調書(その2) (単位:千円)

計画体系コード		5-4-2			事業名	首都圏シティPR事業						
評価(成果)						課題						
首都圏在住者を対象に、山手・中央線トレインチャンネルや観光イベント等を通して札幌の食やアートなどをPRし、観光集客都市としての札幌の魅力をアピールした。						首都圏でのシティPRは、高い効果を期待できる半面、経費負担が大きい。より効果的に札幌の都市イメージや観光資源がPRできるよう事業展開の工夫が必要。						
今後の事業の予定・方向												
首都圏でのシティPRの重要性は増しており、目標達成に向け、現在の経費水準で効果的にPRできるよう、内容や実施方法を検討していく。 具体的な事業としては、観光イベント及びメディアを活用した札幌PRは、開催場所や使用するメディアに検討を加えながら継続して実施する。また、コンベンション・教育旅行の誘致は前年に引き続き実施する。												
事業費の推移												
項目		19年度	20年度	21年度	22年度	計						
計画	事業費	23,085	22,971	22,972	22,972	92,000						
	財源内訳	国・道支出金	0	0	0	0	0					
		市債	0	0	0	0	0					
		その他	0	0	0	0	0					
		一般財源	23,085	22,971	22,972	22,972	92,000					
予算	事業費	23,085	21,931	-	-	45,016						
	財源内訳	国・道支出金	0	0			0					
		市債	0	0			0					
		その他	0	0			0					
		一般財源	23,085	21,931			45,016					
実績	事業費	23,236	-	-	-	23,236						
	財源内訳	国・道支出金	0				0					
		市債	0				0					
		その他	0				0					
		一般財源	23,236				23,236					
事業費の進捗率		(19年度実績事業費 + 20年度予算事業費) / (計画事業費)									49.1%	
計画との差異(予算・事業内容・規模・時期等)												
(全体) 特になし												
[19年度] 特になし												
[20年度] 特になし												